

狩野派 Kano School 一画壇を制した目と手

出光美術館（東京・丸の内） 2020.02.11～03.22



「狩野派」は、室町時代から江戸時代まで400年もの長きにわたって画壇の中心に君臨した画家集団で、彼らが手がける力強く端正な絵画は、その時々有力者たちの要求を見事に満たして絶えず安定した価値を保ち続けていた。画家たちが重視したのは、過去に生み出された中国・朝鮮・日本の絵画に広く臨み、それを模倣することで多彩な図様や技法を習得する訓練をし、「狩野派」は、その作業の蓄積によって実作者として画技を培ってゆくだけでなく、和漢の絵画史に精通した権威ある識者として期待されるようになった。

本展の主眼は、当館の数多くのコレクションを通じて「狩野派」の豊かな絵画世界を紹介するもので、彼らの“絵画制作が模写に始まり模写に終わる”と言われるため、狩野派作品と彼らが接した原本を並べて展示し比較している。

つまり、古今の絵画作品の鑑定と模写による眼と手の記憶が「狩野派」の活躍を支える大切な要素となったことを実感できることとされている。

< 展覧会の構成 >

- | | |
|-------------|----------------|
| 第1章 模写の先へ | — 狩野探幽「臨画帖」と原図 |
| 第2章 正統をめぐって | — 江戸狩野と京狩野 |
| 第3章 古画をみる | — 期待される権威の眼 |
| 第4章 万能への道 | — やまと絵のレパートリー |
| 第5章 鑑定の難題 | — 現代へと続く問い |



狩野探幽・尚信・安信
狩野永納



《山水花鳥人物図鑑（部分）》17世紀（江戸時代）左
《遊鶴図屏風（右隻）》17世紀（江戸時代）右